

近くの玉川上水の遊歩道が最近整備された。川幅は二、三メートル位なのが、兩岸は切り立つ崖で、杉や樺、桜、ミズキ等、大小の木が植えられている。遠くから見ると高さ二十メートル位の木々の連なりに見える。兩岸の土手の外側が遊歩道で、水はけのよい人工の道は雨の日でも泥濘むことはない。所々にベンチがあり、街灯も整備されている。ベンチに座ると川は深くて見えないが、目の前に何重にも重なる木々の緑で森の中にいるような心地がする。

その遊歩道を通って、隣町のスーパーまで買い物に行く。買い物も含めて二時間弱、ちようどよい散歩コースだが、帰りには重い荷物を持って歩くことになる。そこで常々、途中のベンチで一休みをする。

その日は、四時に家を出て、五時半を過ぎていた。辺りは暗くなっているが街灯があるので何の不安もない。

いつものベンチまでもう少し、と歩を進めていたら、その手前のベンチの前に黒皮の男物の靴が脱ぎ捨てられていた。片方は横になり、もう片方は全く別の方向を向いている。心ここにあらず、といった脱ぎ方に見えた。

思わずぞくぞくとして、連れに「首でも吊っているのじゃないわよね」と言うのと、連れは「川に飛び込んだんじゃないか」と言う。

玉川上水は、嘗ては自殺の名所で、太宰治も飛び込んでいる。

現に、すぐ目の前に、水没者慰霊碑が建っている。

怖くなって、その日はベンチに座らず家路についた。

次の日から、スーパーの帰り道、その遊歩道の入り口に立つと頭の中で「くつ」の二文字が躍った。だが、怖がるのも癪なので、ぐつとやせ我慢をして、無言でいつものベンチに座り続けた。

遊歩道は、多少暗くなっても犬の散歩やジョギングの人が頻繁に往来をしていたのに、今は誰も通らず静まり返っている。あの靴の所為？

一か月が過ぎた。靴は片付けられベンチの下に揃えて置いてある。だが、持ち主のことは分からない。人の流れは徐々に戻ってきているが……。

誰か、靴の真相を知っていたら教えて！